

日本新生児成育医学会 2019年度 第5回理事会議事録

日 時：2019年11月26日（火）15：00～18：00

場 所：SHIROYAMA HOTEL kagoshima 4F オーキッド

出 席：茨 聡, 河井昌彦, 日下 隆, 河野由美, 高橋尚人, 長 和俊, 中村友彦, 中西秀彦, 長谷川久弥,
早川昌弘, 飛弾麻里子, 福原里恵, 細野茂春, 水野克己, 森岡一朗, 山田恭聖, 与田仁志, 和田和子,
和田雅樹, 渡部晋一（各理事）, 猪谷泰史（監事）, 大木 茂, 芳本誠司, 松本 敦（各幹事）

欠 席：北島博之（監事）

（敬称略）

議 事：

1. 理事長報告

- 1) The 3rd Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatology の件
11月27日（水）13：30～15：30に開催される標記学会のプログラムが資料として示された。
- 2) 文献許諾使用料の件
メテオ社の7～9月の文献使用料は合計907円（今年度合計2,008円）で、支払い金額が税込みで10,500円を超えた時点で指定口座に振り込まれることになっている。昨年度分は合計11,563円で、6月1日に振り込まれた。
- 3) 非医師入会の件
3名の入会が報告された。
- 4) 通信理事会議決結果報告
決議事項3件〔①サーベイランス事業新規申請「MIRAGE症候群およびMIRAGE症候関連疾患」について、②2020年9月期（2019年10月1日～2020年9月30日）事業計画及び収支予算の件、③若手新生児科医フェローシップ〕, その他連絡事項が11件あった。資料を元に決議事項3件に関して、理事会にて内容を確認し、最終的に議決・承認された。
- 5) SIDS対策強化月間ポスターの件
厚生労働省よりSIDS対策強化月間ポスターが送付されてきたため報告された。
- 6) 代議員選挙・理事選挙のスケジュールの件
来年は公益社団法人となって初の選挙が開催される。関西方面の先生方から選挙管理委員を選出する予定で、追って通信理事会等で承認を得る予定である。来年は変則的なスケジュールのため、来年の周産期・新生児医学会の学術集会で社員総会を開催する。
- 7) 日本医療機能評価機構からの連絡の件
産科医療補償制度に関するリーフレットとMindsフォーラム2020の案内が共有された。

2. 審議事項

- 第1号議案 一般社団法人第5期（2018年10月1日～2019年5月27日）決算書類承認の件（中村理事長）
5月28日付で公益法人化したため、分ち決算となっていて、分けて決算報告書が作成されている。猪谷監事より、監査報告があり全会一致で承認された。
- 第2号議案 公益社団法人第1期（2019年5月28日～2019年9月30日）決算書類承認の件（中村理事長）
猪谷監事より、監査報告があり全会一致で承認された。
2019年度全体については、収入の部の会費が会員からの会費納入率は89%、代議員費の納入率は101%となった。また、学会誌の広告収入が減っており昨年から8万円減の132,800円となった。アレクシオンファーマ社より50万円の文献使用料が支払われたため、予算を大きく上回ったことが説明された。

支出の部の雑誌刊行費は、特集の掲載で各号50ページ増となり、予算を117万円上回った。事務局受託費は公益法人化後、メディカ出版との契約を更新し、新たに施設利用料が支払われることになったため、予算より42万円増加となったことが説明された。

当期全体の歳入・歳出では88,200,596円の歳入に対して94,964,374円の歳出となり▲6,763,778円となった(昨年度▲5,889,416円)。次年度繰越金は50,210,248円となっている。社員総会では、会費増額について提案予定である。

第3号議案 第67回(2022年)総会・学術集會会長選出の件(中村理事長)

細野理事が第67回会長に決定した。現時点ではパシフィコ横浜で11月24日～26日で予定されているが、会場については検討中である。

第4号議案 年会費の継続支払の件(中村理事長)

2017年よりクレジット決済を開始し、会費納入率向上に努めてきたが、資格喪失退会者の数があまり減っていないため、改善策として自動決済を導入する案が提案され2021年度よりクレジット決済の自動継続システムを導入することが承認された。

第5号議案 2020年度の理事会・社員総会日時の件(中村理事長)

2020年度の理事会は以下の通りに開催されることとなった。

第1回:1月31日(金)11:00～13:00 浜松(周産期学シンポジウム開催前)

第2回:4月12日(日)16:00～18:00 神戸(第123回日本小児科学会学術集會終了後)

第3回:7月17日(金)15:00～18:00 札幌(第65回日本新生児成育医学会学術集會前日)

第4回:11月27日(金)13:30～15:30 東京(第56回日本周産期・新生児医学会学術集會会期前)

2020年度社員総会:2020年11月30日(月)東京(第56回日本周産期・新生児医学会学術集會最終日[東京])

選挙後の新理事会:2020年11月30日(月)の社員総会終了後

第6号議案 総務委員会:MLの運用規定について(和田委員長)

今後、案内等で理事会MLを利用する際、発信は事務局から行うことが決定した。返信はこれまでと変わらず各位がメーリングリスト上に発信する。委員会MLについては特に決まりはない。

第7号議案 教育委員会:到達目標増刷の件(早川委員長)

新生児学テキストの該当ページを入れたものを500部増刷したいとの提案が出され、全会一致で承認された。

第8号議案 国際渉外委員会:台湾・韓国の講演者招待に関する規則(案)(中村理事長)

日本での開催にあたり、招待者の人数や負担すべき宿泊数など曖昧になっていた部分について、台湾、韓国とも相談したうえで作成された規則案が提示された。Joint Congressは学会が開催し、費用も学会が負担することのほか、講演者や招待者のリスト作成等も学術集會会長ではなく学会の国際渉外委員で行う旨記載されている。問題なく承認された。最近は若手・中堅含め隣国同士で交流を深めてきているため、Annual meetingで学会長を慣例的に招待し合うことについても韓国・台湾側の意見を聞きながら再考することとなった。

また、今後の交流を考えて英語のスライドを増やす必要があることから、学会将来構想委員会でこれまで検討してきたことを踏まえて再度同委員会で検討することについても提案があった。

第9号議案 災害対策委員会:Q&Aの改訂について(中村理事長)

台風19号により大きな災害があった影響で、共同通信社が学会ホームページに掲載している「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ&A」を紹介してくれている。注目が集まっているため、液体ミルクのことなどを盛り込んだ改訂版を作ることが提案され、全会一致で承認された。理事長からは公益法人として積極的に社会貢献していきたいとの考えが示された。

3. 第64回学術集會会長挨拶(茨会長)

一般演題433題が集まった。「日本と米国における周産期医療の発展」と題して池ノ上 克先生、村田雄二

先生、橋本武夫先生の特別講演を行うほか、シンポジウムでは、「INTACT を目指した脳室内出血管理」、「脳室周囲白質軟化症—これまでとこれから—」、「最初の切り札・最後の切り札—新生児急性血液浄化療法—」など11テーマについて講演を行っていただく。ぜひ会場に足を運んでいただきたい。

4. 第65回学術集会について（会長長）

2020年7月18日（土）～20日（月）北海道のロイトン札幌、札幌市教育文化会館にて「北の大地で新生児医学・医療の未来を語ろう」をテーマに開催される。新生児看護学会は同年7月18日（土）～19日（日）に開催することとなった。特別講演は「アイヌ文化の未来」と題して札幌大学の本田優子先生にご講演を依頼している。また、合同招請講演では、「アフリカの大地で障がい児と向き合う～障がい児とご家族が笑顔でいられる社会を目指して」と題して、ケニアで赤ちゃんの療育施設を設立された公文和子先生をお呼びする予定である。

5. 第66回学術集会について（長谷川会長）

2021年11月11日（木）～13日（土）にパシフィコ横浜にて開催予定である。

6. 庶務報告（和田理事）

全会員数は2,802名（昨年報告数2,807名）、男女比約2対1である。新入会は217名（昨年報告数215名）、2019年度退会者は203名（昨年報告数229名）のうち一般退会者は84名（昨年報告数103名）、資格喪失退会者が119名（昨年報告数126名）であることが報告された。また、物故会員について報告があった。石関しのぶ先生（2002年～2007年まで評議員）、佐藤吉壮先生（2005年から評議員〈現代議員〉）、小西行郎先生（功労会員）

7. 各種委員会報告

1) 社会保険委員会（和田委員長）

2020年度社会保険改訂の為に厚労省ヒアリングが終了した（2019年7月29日 提案項目：プレネイタル・カウンセリング加算）。その際の指導に基づき、カウンセリング体制、カウンセリング内容等について追加報告を行った。

内保連の遠隔医療関連委員会の第1回会議が開催された（2019年8月23日）。当学会は①D to D、②D to Pの両方の小委員会に参加する予定である。

2) 薬事委員会（飛弾委員長）

厚労省の「供給停止予定品目」疑義照会について、日本小児科学会薬事委員会から確認依頼があり、対応した。2019年8月～10月にかけて、4回の依頼があった。令和元年度第2回（31疑1333号）については、ユベラ顆粒[®]（サンノーバ社）が含まれていた。ビタミンEの散剤は後発品がユベラE顆粒20%（ツルハラ製薬）のみのため、同剤の安定供給の必要性について意見書を提出した。なお同様の意見書が日本小児栄養消化器肝臓学会からも提出されている。

3) 利益相反委員会（山田委員長）

利益相反に該当する案件はなかった。

熊本震災復興支援として熊本大学に派遣された新生児医師が、第64回学術集会（鹿児島）においてこれに関する演題発表するにあたり、利益相反開示申告の必要性に関する問い合わせがあったため、通信委員会で審議を行った。学会からの支払い額は、交通費・宿泊費実費支払い分を除けば、日当5000円×7日分となり、利益相反指針細則第2条（申告すべき事項と金額）「(7) その他の報酬」の定める年間5万円を超えていないため、申告の必要がないことが確認された。

4) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

- 第4回理事会で承認され日本小児呼吸器学会と合同でRSウイルスに関するガイドを作成する件について、2019年10月17日に日本小児呼吸器学会と会議を行った。「RSウイルスと小児呼吸器疾患ガイドブック（仮称）」を合同で作成する方向で進めている。

- 今回の学術集会の会期中に委員会を開催する予定である。
- 5) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）
 - 女性医師の働き方に関するアンケートを、新生児医療連絡会と将来構想委員会の合同アンケートで行う予定である。
 - 第65回日本新生児成育医学会学術集会（札幌）で、委員会主催ワークショップを開催予定である。
- 6) 医療の質向上委員会（長委員長）
 - 稀有疾患（病態）サーベイランス事業
 - 1) 調査中の疾患（2019年10月25日現在）
 - 「新生児血球貪食性リンパ組織球症（HLH）および新生児ヘモクロマトーシス」37回登録（31施設）
 - 「先天性トキソプラズマ感染症」12回登録（10施設）
 - 「サイトメガロウイルス（CMV）関連敗血症様症候群」10回登録（9施設）
 - 「新生児偽性低アルドステロン症」5回登録（4施設）
 - 「MIRAGE症候群およびMIRAGE症候群関連疾患」4回登録（4施設）
 - 2) 「症例なし」487回登録（201施設）→「症例なし」を疾患ごとに登録できるよう検討中
 - 3) 新規の疾患：なし
 - フォローアップ事業
平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業「超低出生体重児の成人期に達するまでの慢性疾患群合併の実態把握と支援方策の確立に向けた研究（H30-特別-指定-017）」班（河野班）：報告書提出済み、第64回学術集会で発表予定である。
- 7) 学会将来構想委員会（高橋委員長）
 - 新生児医療連絡会と診療委員会との共同で、現在の新生児医療提供体制についての全国調査を開始した。調査の概要は資料参照。10月初旬に新生児医療連絡会の各都道府県代表者に医療圏・施設の調査依頼メールを送信した。調査施設を確定後、各施設の代表者（担当者）に調査依頼のメールを送信する予定。調査はウェブ回答になる。3月の年度内に結果を出したいと考えている。
 - 11月28日に診療委員会との合同委員会を開催する。周産期・新生児医学会で第7次医療計画の中間見直しを行っていて、勉強会を行う予定である。働き方改革に合わせる必要がある。現状の調査をこの学会と連絡会の共同で行う。
- 8) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

特になし。
- 9) 倫理委員会（福原委員長）

倫理委員会主催のワークショップについては、医師8名、看護師11名、心理士8名、家族7名の合計31名と倫理委員会委員9名で開催。11月27日（水）13～16時に事例を用いた多職種によるグループディスカッションを行う。第65回学術集会ではワークショップは行わず、シンポジウムの開催を予定している。
- 10) 総務委員会（和田和子委員長）

理事会メーリングリストの活用方法について協議し、今後、通信理事会以外のことでメーリングリストを用いて意見交換を行う際も、事務局から発信したのちに役員が投稿することとなった。
- 11) 国際渉外委員会（日下委員長）
 - Joint Congressのプログラムを学術集会ホームページに掲載している。韓国・台湾・日本の総勢71名が発表予定である。招待者は、韓国がKi-Soo Kim（理事長）、Ellen Ai-Rhan Kim（Speaker）、Chang Ryul Kim（Chairman）、台湾はChyong-Hsin Hsu（理事長）、Reyin Lien（Speaker）、Hung-Yang Chang（Chairman）の合計6名である。
- 12) 学会誌編集委員会（河井委員長）

- 2019年度の原著論文の応募は29編, うち13編は掲載が決定している。オンラインで受付できるようになったが, 投稿数は増えていない。
 - 懸案事項になっている英文誌の制作については, 学術集会会期中に意見収集を行う。英文の症例報告については字数に制限があるので難しいが, 英文でたくさん出していくという道はあるかもしれないという意見が出された。
- 13) 教育委員会 (早川委員長)
- 第7回医学生セミナーは, 2020年5月23日(土)~24日(日) ホテルライフオーソ札幌にて小林正樹先生(札幌医科大学附属病院 NICU) を実行委員長として開催予定である。第24回教育セミナーは, 2020年8月27日(木)~29日(土) 倉敷アイビースクエアにて久保田真通先生(倉敷中央病院小児科) を実行委員長として開催予定である。2021年以降については, 経費削減の方向で進めていく予定である。
- 14) 学術委員会 (長谷川委員長)
- 若手新生児科医フェローシップは今年度16名を採用した。
 - 米国小児科関連学会2020年度発表者推薦の件は上田一仁先生(名古屋大学医学部附属病院) を推薦した結果, 小児科学会で選出された。推薦をどのように選出しているのかという問い合わせが多いため, 今後, 全会員から募る形にしてはどうかとの意見が出され, 委員会で検討することとなった。
 - 学術集会会期中に学会論文賞および学術奨励賞受賞記念講演, 佐多フェローシップキングスカレッジプログラム留学報告が行われるので, ぜひ聞きに行っていたきたい。
- 15) 医療安全委員会 (渡部委員長)
- トラックケアの不具合の報告があった。学術集会終了後に学会ホームページ上で注意喚起を出す予定である。第65回学術集会では教育講演「医療ガスの基礎と安全管理」, シンポジウム「医療安全からみた新生児医療のピット・フォール」を委員会企画で行う。
 - NICUで使用する栄養チューブのコネクターの規格が世界的に統一される件でJMSが, 企業展示等で広報を行う。
- 16) 産科医療補償制度対応委員会 (細野委員長)
- 特になし
- 17) 診療委員会 (与田委員長)
- 重症先天性心疾患スクリーニングに関するアンケート結果を日本産婦人科医会報へ報告した。また, 中野委員が, 日本新生児成育医学会で口演にて発表予定で, 日本周産期・新生児医学会雑誌へ投稿予定である。また, スクリーニング案を医療の標準化委員会と連携して作成予定である。
 - 医療供給体制に関するアンケート結果を網塚委員が小児科学会誌に寄稿予定である。
 - 日本小児科学会移行支援委員会で「疾患別 移行支援ガイド」を小児慢性特定疾病に相当する疾患について作成する。当学会は該当疾患なし。
 - 学会将来構想委員会に協力する形で「働き方改革」に対応するためのアンケート資料作成に参画している。
- 18) 医療の標準化委員会 (中西委員長)
- 厚生労働省保険局医療課より「医療技術に関連する指針等の現状に係る調査」依頼があったが該当するものがなかったため, その旨を回答した。
- 19) 災害対策委員会 (茨委員長)
- 第64回日本新生児成育医学会学術集会の最終日(11月29日)に鹿児島市立病院多目的ホールにて, 災害医療研修会の開催を予定している。小児救急医学会等他学会にも協力してもらっている。12月22日(日)10時から小児科学会災害対策委員会, 12月23日(月)19時から四者協の会議に出席予定である。
- 20) 広報委員会 (水野委員長)
- 学会員に有益なものを発信するとともに, 国民にアピールできるようなサイトにしていくこととなった。